

糸子図書館ボランティアより

きぼう

第5号

2009年10月 阪南市立図書館サポーター・ブックファン広報部会発行

ブックカバーデザインコンテストの応募作品

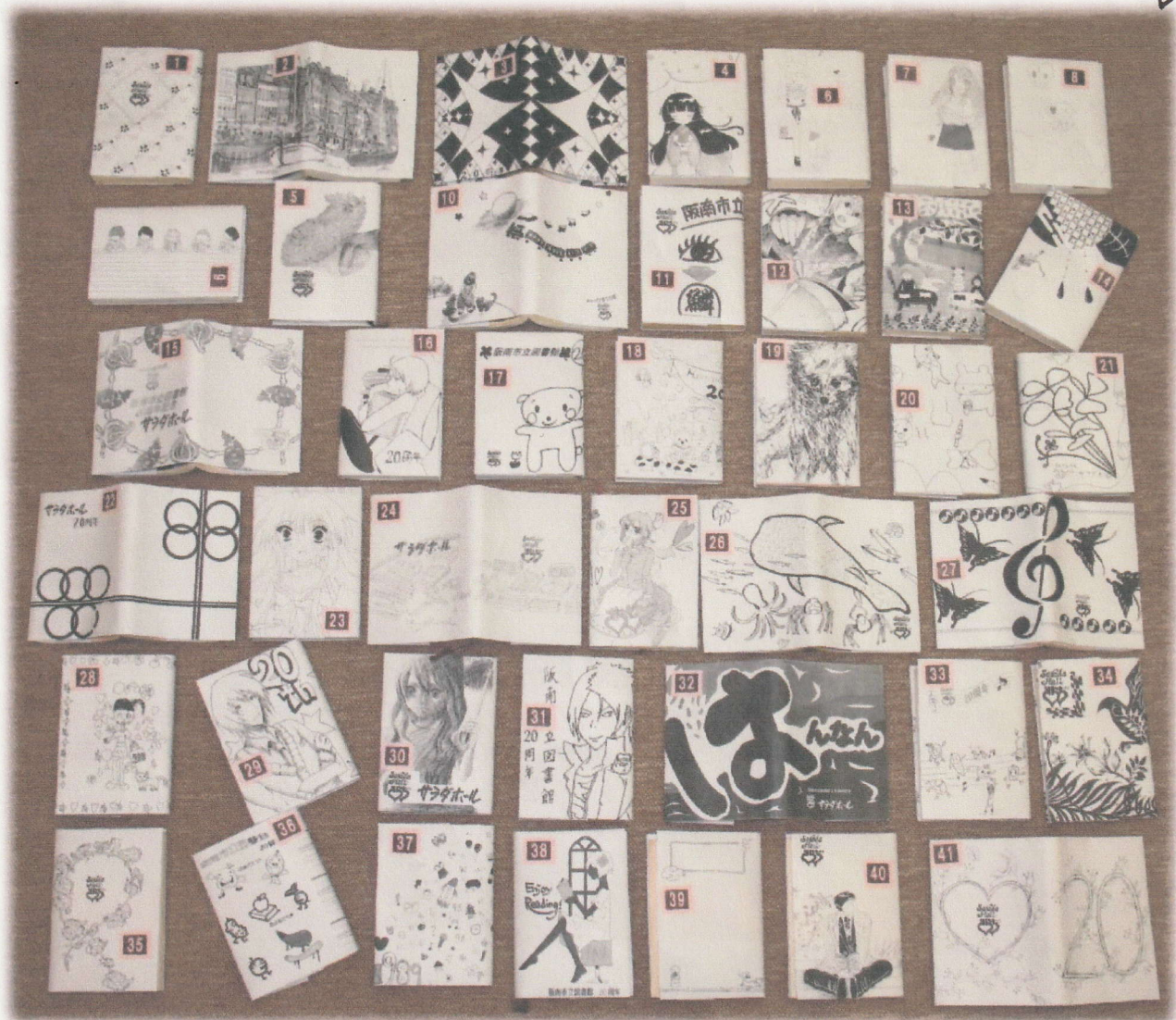
図書館では、開館20周年記念として、ブックカバーデザインコンテストを行いました。

41点のすばらしい作品が集まり、人気投票を行いました。

約3週間の投票期間に1690票もの投票があり、上位10作品と、図書館賞1作品が決まりました。

上位10作品は(1, 2, 4, 13, 15, 18, 27, 33, 34, 38番)で図書館賞は(24番)です。

選ばれた作品は、印刷し、11月2日(月)から配布する予定です。



本のリサイクル

図書館でのつとめを終えた本や雑誌をお譲りします。

開催日：平成21年10月17日（土）

時間：午前9時半～午後3時

場所：サラダホール2階視聴室

冊数：本は10冊まで。雑誌は一部を除き無制限

入場方法：図書貸出券をご提示ください。忘れた場合は入場できません。



図書館20周年記念事業のご案内

開催日：平成21年11月1日（日）

場所：サラダホール

「世界にひとつだけ、素敵なmy絵本をつくろうよ！」小ホールで開催、時間：午前10時～12時
(事前申し込み)

講師：さいとうしのぶさん、対象：阪南市在住の2歳以上の子どもとその保護者、参加費：無料、
その他詳しくは公報はんなん10月号をご覧ください。

「劇や人形劇ペープサート（紙人形劇）など」小ホールで開催、時間：午後1時半～4時（自由参加）
詳しくは図書館（Tel 471-9000）へお問い合わせください。

「おはなし会」視聴覚室で開催、時間：午後2時～2時半
「阪南市おはなし会」による小学校高学年以上向けのおはなし会です。定員30人程度。参加費：無料

開催日：平成21年11月3日（祝）

場所：図書館

※図書館の誕生日です

「20周年記念図書館バッグ配布」本を借りた人先着450人にプレゼント

「大人のための館内ツアー」時間：午前11時～、午後2時～の2回

「特別プログラムのおはなし会」時間：午前11時～、午後2時～の2回



河野義行さん講演会

「松本サリン事件」からの教訓

日時：平成21年10月10日（土） 13時開場 13時30分開演

場所：サラダホール 大ホール 詳しくは図書館（Tel 471-9000）へお問い合わせください。

子どもの脳が危ない！ ～赤ちゃんから大人までの読書のすすめ～

日時：平成21年12月4日（金） 9時半開場 10時開演 12時終演

場所：サラダホール 小ホール

講師：板倉 徹氏（和歌山県立医科大学医学部長、脳神経外科教授）

参加費：無料 整理券は11月9日（月）より図書館カウンターにて配布します。
(なくなり次第終了)



図書館は子どもが幼い頃は、絵本や紙芝居を借りによく通いました。今は本を借りる以外に調べものに来る事が多いのですが、パソコンの無い我が家にとってはとても有難く頼りになる場所です。インターネットの様にすぐ答えはできませんが、棚を捜すのも楽しみの一つになっています。私は訪問介護の仕事をしていますが、最近、利用者の方に図書館から娘さんが借りてこられた「大活字本」を見せて頂きました。高齢者に配慮した大きくて読み易い文字に驚きました。

私も年と共に老眼が進み、小さな文字が読み辛くなってきていたので、一度借りてみようかなと思っています。私は現在図書館のすぐ側に住んでいます、十年前に家を選ぶ時、「駅近」よりも「図書館近」が決め手になったことは事実です。これからも我が家の本棚として大切な場所であり続けるでしょう。

図書館を利用して



伊勢起久子

自分の人生を変えたのは一冊の本だったという話を聞くことがあります。問題を抱えている時に、本が解決の糸口となるのです。

けれども、一人で本を探すのは骨の折れる作業で、時にはあきらめてしまいがちになります。そこで心強い助っ人が図書館の司書さんたちです。彼女たちは、豊富な経験を駆使して、いつでも利用者の要望に応えてくれます。

図書館は単に本を貸し出す建物ではありません。問題解決や生きる力を与えてくれる本との出会いを手助けする司書さんたちがいてこそ、図書館の存在価値があると思います。現在、民間委託された多くの公立図書館のカウンターには、単に本の貸し出し業務をする人たちがいるだけと聞いています。私たちが助けを求めていけば、必ず的確な本を探してくれる司書さんたちがいる図書館の大切さを再確認するとともに、私たち利用者と、わが町の図書館を守っていく義務があると思います。

森本 典子

＜ご存知ですか＞

『おはなしでてこい』

毎日土曜日2時から30分間のおはなしの会の内、月2回を『おはなしでてこい』が担当しています。まず主になるおはなしや絵本を決め、人形やカードを使っての詩の暗誦・ストーリーテリング(昔話や創作のお話を覚えて語る)・絵本や科学の本の読み聞かせ、他にわらべうたや手遊びを子どもたちの様子を見ながら間にいれて、楽しい時間を持てるようにプログラムを工夫します。「本と子どもの出会いは一期一会」との緊張感をいつも持って、作品の良さをきちっと伝えられるよう練習はしっかり積んで子どもたちの前に立っています。

おはなしや読み聞かせを聴く子どもたちのキラキラした眼差しや、会の終了後に本の所に駆け寄り「この本借りると」手に取る場面に出会うと、ボランティアをされていて良かったとうれしさがこみ上げてきます。ぜひいっしょに学びながら、子どもと本をつなぐかけ橋のメンバーとなって喜びを分かち合いませんか。

(図書館おはなしの部屋でおこなわれています)

谷本美由貴

『半島へ、ふたたび』

蓮池薫/著

新潮社

D/Aズ

八月二十七日、第八回新潮ドキュメント賞受賞の喜びを語る蓮池薫氏の高揚が報道された。二十四年前の拉致の夜、次第に遠ざかる故郷の灯を、万感の想いを臉に留めた。平壤はその暗さに象徴される日々が待っていた。

未だ打開策が問われる中、一言が緊張の火種ともなる。本著は帰国後始めての海外・韓国取材の手記である。翻訳家への選択は、かつての時間を取り戻す手ごたえとなる。降り立ったソウル、多くが北を連想させる。言語・伝統・歴史を共有してきたためだ。尚奥地に足を踏み入れる。南北分断の象徴、臨津江（イムジン河）

「・・・鳥になって自由に南に飛んでいきたい」蓮池氏訳の詩は結ぶ。

高齢化する被害者の救済を祈念し、文筆活動を通しての解決が今出来る事と、その使命を以って訴える。何人の自由も奪ってはならない。その大切さ・喜びを、手の中にした人が語る。計り知れない道のりを思う。

ミス宇宙人

『花と昆虫、不思議なだましあい発見記』

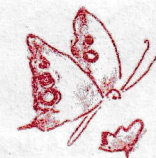
田中肇/文

正者章子/絵

講談社

471・3

私のおすすめ



黒田 治平

植物は、様々な環境に適応できる子孫を残していく遺伝的多様性を保つために、異なった環境で育った別の固体の花粉で受精する他家受粉が大切です。

そこで重要な働きをするのが花粉の媒介者（ポリネーター）の昆虫たちです。

しかし、植物と昆虫たちとは必ずしも利害は一致しません。そこでお互いの駆け引きが生じてきます。この本では、この様々な駆け引きの仕組みを紹介しています。著者は植物（花）に対して「きれいなかわいさ。かわいい。」だけでなく、「すごい！よくできています。」という見方があることを教えています。普段、わたし達の足元で見向もされない小さな植物が、子孫繁栄のために、こんなに巧妙な仕組みの中で生きていくことに驚きます。五感を使った観察の基本と、さらに、疑問に思ったことを自分自身でもう一度確認をすること、実験を通して実証することが大切なことも教えてくれます。これらの巧妙な仕組みは、花と昆虫の関係が地球上に生まれてから一億年以上もの長い間、お互いがだましあい、戦い、また共存する中で少しずつ共進化を遂げてきた結果です。今もどこかでその駆け引きが続けられているはずですよ。

『南極のペンギン王国』

メアリー・ホープ・オズボーン/作

メディアファクトリー

K933オス

ぼくのおすすめの本は、マジックツリーハウスシリーズ26巻目の『南極のペンギン王国』です。なぜこの本をえらんだかというと、アニーとジャックという兄弟が毎日いろんな国に行っているからです。今回二人が行った場所は南きよくです。南きよくは、とてもさむくて、ペンギンがいるところです。二人はそこにしあわせのひけつをさがしにいきます。つづきは本を買ってしらべてください。本は、はん南しりつとしょかんでもかりられます。ぜひみなさんも読んでください。